附属病院
訪問

歯学部附属病院
口腔外科外来

口腔顎顔面領域の外科治療を通して全人的医療を実践

顎顔面外科学分野の依田哲也科長。「受け口などの手術後、前向きな気持ちになれたという患者さんが多数います。私たちは噛むという機能的なことだけでなく、精神的な健康につながる医療を実践しています」

顎口腔外科学分野の津島文彦先生。「食べることや話すことはQOL（生活の質）に大きく関わるので、口腔機能を大切にした治療をしています」

局所麻酔での治療が可能な外来診察室。初診は完全予約制。

口腔外科外来でもっとも多いのは、外科的治療を必要とする埋伏した親知らずの抜歯。全身麻酔での治療は年間1200件に上る。

3DCTデータでモデリングし、3Dプリンターで成形した骨モデル。

口腔外科外来は、顎口腔外科学分野と顎顔面外科学分野が担当する外来で、口腔顎顔面領域の様々な疾患に対する外科的治療を行う。

口腔がんなどを対象とした顎口腔外科学分野の治療では、術後の生活まで配慮して手術を行う。手術によってがんを切除することはもちろん、食べる、話すといった口腔機能をできるだけ温存することを目指している。

顎顔面外科学分野は、顎変形症や口唇口蓋裂をはじめ、顎関節や骨に関連する疾患を治療する。顎の骨を切って大きく動かす手術では、3DCTで撮影した画像から3Dプリンターで歯列模型やサージカルガイドを成形するなど、最新のデジタル技術の導入も進めている。

診療科長の依田哲也教授（顎顔面外科学分野）は、口腔外科外来について「日本トップレベルの技術と症例数を持つ診療科です」と語る。今後の重点課題として医学部附属病院との連携を挙げた。

「口腔外科の領域は医学部の頭頸部外科や耳鼻咽喉科の領域とも近く、治療においては放射線科や腫瘍センター、緩和ケア科とも密接に関わる必要があります。他科との連携を進めることで、全人的医療を実践していくことを目指しています」

口腔顎顔面領域の外科治療を通して、機能の回復だけでなく、精神的な健康に貢献する医療につなげることを目指している。 B